

明
治
十
七
年
六
月

識
乃
世
傳

神
藏
果
法
派
毅
穆
本
島
刻

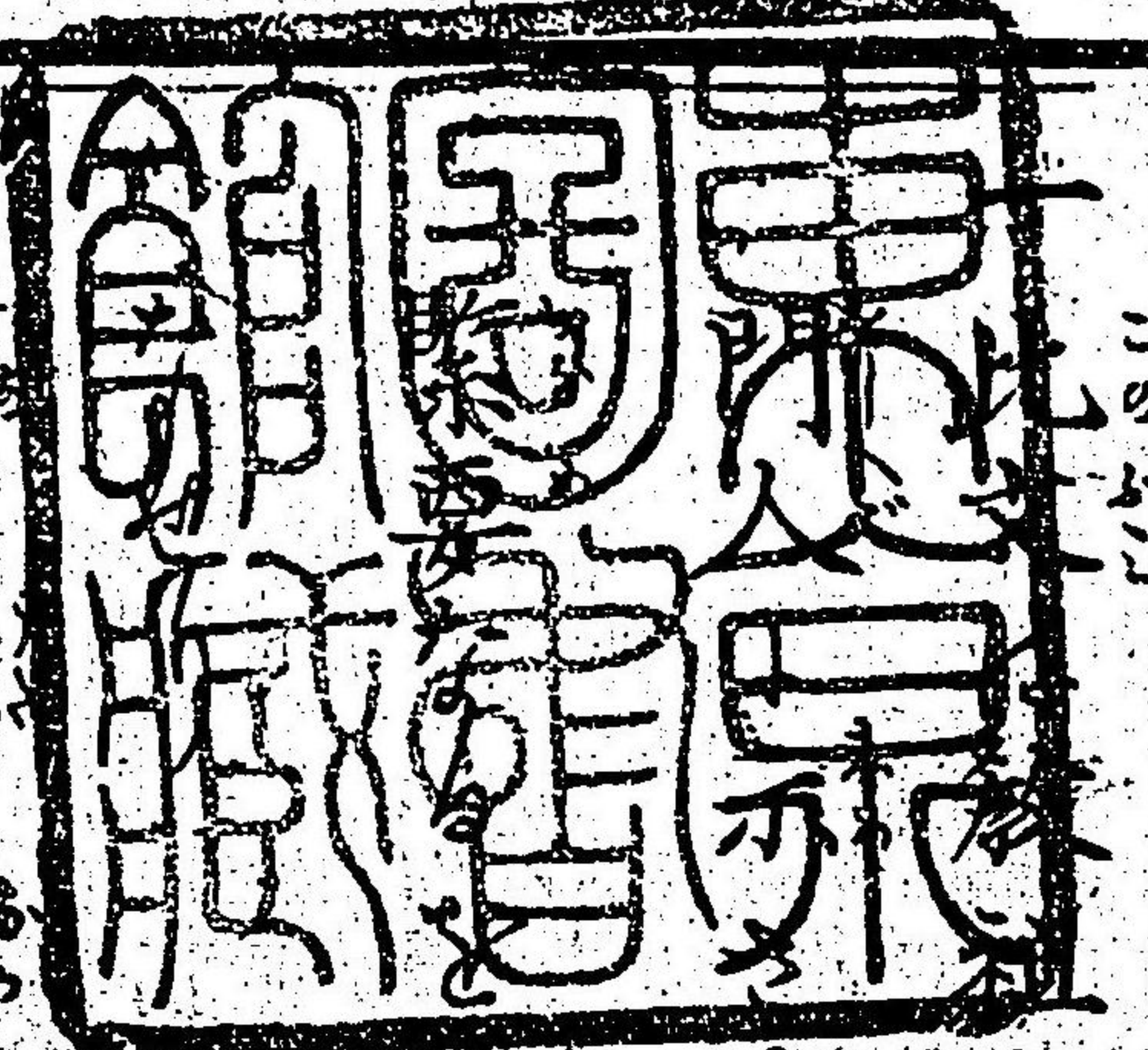
特36
595

東京
書館
香山



福澤諭吉

九例



宗忠神の詠せられし道乃歌中
道一教の文とを輯索め該が中の
抜萃と一卷として該派の初學と

一同一歌の中よてにはの異同りたるあり該
は彼此比較して勝まりと思ふとを載せた

五

一教の文は一書中の緊要なる條のこを抜萃し
載す

誠乃心傳

神道黒住派管長

權少教正 黒住宗篤 編輯

同派傳習係長

大講義 星島良平 校正

道の歌

身も家も心も捨てて
地のたつた一乃誠計
多る事やうまも
果もを愛もおか
誠の肉を思ふ
誠厚とせし難有きもの
誠一つで四海兄弟

雲霧ハ自然の風のまはるるあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 天地とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 たもつとも又たつともあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 家とらふあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 家とらふ其一物をたつともあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 樂らむあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 と思す神の御徳とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 と思す神の御徳とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と

向ふ事皆曰産くともひも寝くも覺ても難者う那
 深ききんとも生えあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 家深きもふ又及ぶまが地とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 と思す神の御徳とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原とあまの原と
 教乃文

一毎交道の事由尋は先折合在申古田也
 三前よまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
 一ふハまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

も何事家が執り大切なる事あり一講釈ハ甚
宣友皆。悦中長先日も道歌よ

こよ来て口づりしらく道を再びりし老實なる人

とりし長なる己がら我もあきてし時ハ口

まがりありそ時何となく無心の所が口に出る也

是亦そのりは志むる也又笑人もみけ汁とる笑

ぬる誠一辨あり天地一辨ある時ハ外の家と

その者ありそ時に至るあり少くも何れも迷

出ともなる後返り何れも天地は歩ませば成

一信ハハはらふ事の中は来ぬ中一葉の日月

小歩ませ何れも小依のふと日よの道は成

来日月掃さる無執掃と心ハ形のみとる志は成

ふむらりと心は言を成せり自然とは信ハ

一と照ち神の傳神法ハ言を以て難述は事

誠乃の專

多難ハ難者ト申能事リ外云ク皆成滅の一ムニ
 成リ生死ト難者神佛諸道の極意を盡スルニ
 望ク申能事安ク只難者トシム一ムニ
 一ムニ一ムニ成リ少クも乱者アリ時ハ死ト
 中ニ絶テ一ムニ是神的一体トシテ其の皆一ムニ
 入ラズ事更ニ一ムニ外ニ道の執リ皆一ムニ
 萬物の靈長たる者故一ムニ申能事何ニ
 一ムニ申能事申能事トシテ神の好ト其

是を神ありん成佛トシテ佛の好いと其を佛
 也鬼の好なり成り鬼の好と其を鬼也畜生の好
 也畜生の好なり成り畜生の好と其を畜生の好
 来次第トアリ也神道の執力一ムニ神と極神の好
 と其の好神道本意也其を神道と成ラズ人故也
 油跡成皆成後
 一法皆も其計一者余り其を少許申能事トシテ
 と出能事

ちけやのいひまはせ
 ちかやのいひまはせ
 とよこもかゝる新世衣ひくしのんも無形そのん
 も無形衣が合ふ成のけと見えむ古々の信あり
 お母やす侍せむたな道徳を道徳にござんとのこ
 しと形と意の時くも神代あるごとく
 一 新成衣も神世謀新也吹く人のんも衣と
 懸てもあつ時い直よ神世之神世も次第よ神徳
 厚くお來奉るとぞんく弥難有な形收

一 未始性物あらとてとて形も由は難きしとととと
 長款し中するもあつちくた先業
 雲かりの志せんのはんはちりあまのしとをかくのめこそ
 ち候由自身とはととととととととととととととととととととととと
 ひわがまも難有のそこお成りては只とのあま
 衣よ子のきさることやの葉の目付とやまをこと
 之月て者あまをい思まとして思有る人の
 んもそと通りありて有り難きととと成

東法世よ生才東法を能く考へてねが難有が
 の持まへ之候難成難と名もぬが素行のさす
 まば昔よある事あり昔よ教ぬ時ハ何とい
 一あり計あり左様ありん道より外へあり
 道よん住時大安楽をん一つよてあり
 次等也

一ふ満の時ハ神の入所あり
 大神のふん志んら安楽を誠よ
 一の開運

の所あり

一道あり○ふより外ハ毎日生時一首出り
 一の中ハ
 是男生道一何れも限りを付あり
 一は神よ年ハ夢あり少のるも彼の丸き難者
 一は思道と来官あり面ありも妹一きも昔よあ
 一もあふ一あもら一のあもあ也事ハ少のるも

何ゆ致を成りぬ

一滅の道は六つあり少も其の道は道なり

能通事と無事神と其の道は生と生と一と其の

の分ちある生と生と其の道は生と生と一と其の

の道も申さるる生と生と其の道は生と生と一と其の

の道も申さるる生と生と其の道は生と生と一と其の

の道も申さるる生と生と其の道は生と生と一と其の

の道も申さるる生と生と其の道は生と生と一と其の

難者より外ハ其の道は生と生と一と其の

少も一入用と其の道は生と生と一と其の

息と存生と其の道は生と生と一と其の

る時ハ迷ハ其の道は生と生と一と其の

也ハ其の道は生と生と一と其の

道も申さるる生と生と其の道は生と生と一と其の

難者一其の道は生と生と一と其の

者ハ其の道は生と生と一と其の

一葉中上置能通道ハ何もむらうきさうハ甚
 是生唯乃乃心を知り業よりひくめよ成
 信より上ハ何るも命よ任せ成能より外
 一彼方無生能業より一より出能の信ハ免
 角一人の乱さぬやうに道とすも能
 其一もて地の一人よは生能只今一首
 月も日も亦も皆一人より出能別物と名
 月も日も亦も皆一人より出能別物と名

善悪共難有のこも歩能可成能
 一小子も次第よを居能く自も社よは書面も
 調能皆甚乱能く信能た共中上能只今
 神前は拜申と一首
 子聖神の生能生能の心とらるも
 誠よ業と兼知仕よのよ業ものよ心より生
 付らる生能物とらるも廣大ある不生不滅能
 こと共し申能只何ものよ任能た能成よ能

人も十人ハ十包^{じゅうにんはじゅうたう}してその望^{のぞ}を如^{ごと}く用^{もち}はる位^{くらい}初^{はつ}め
 のま^まくよお感^{あひ}は振^あては望^{のぞ}はる共^{とも}りの留^{とど}まり本^{ほん}成^{じやう}
 忘^{わす}るすく色^{いろ}くと道^{みち}の邪^{よこ}をよと道^{みち}成^{じやう}様^{やう}一^{いつ}はと
 お見^み一^{いつ}は小^{せう}子^し近^{ぢん}比^ひを執^{しやく}り共^{とも}何^{なに}あるも物^{もの}よすはら
 承^{うけ}取^とり成^{じやう}お取^とり中^{ちゆう}に志^し志^しう一^{いつ}向^{むか}ふ者^{もの}を外^{ほか}にとてハ志^し
 成^{じやう}望^{のぞ}は共^{とも}くハ境^{かう}は影^{かげ}をうつ其^{その}がぬ一^{いつ}教^{きやう}ハ唐^{たう}
 こ一人^{ひとり}ふとすまんとりども少^{すく}しも淋^{しみ}々^々のさ
 くさるハ市中^{ちゆうじゆう}ニ居^ゐる共^{とも}是^{こゝ}成^{じやう}様^{やう}のくも成^{じやう}の

ハ海^{うみ}内^{うち}望^{のぞ}は
 一^{いつ}道^{みち}も能^よく見^みらちそよハ成^{じやう}望^{のぞ}は古^こ弟子^{でし}中^{ちゆう}も又^{また}
 目^めの變^{かは}は振^あては望^{のぞ}は振^あては志^し志^しの對^{たい}より外^{ほか}に執^{しやく}り
 成^{じやう}望^{のぞ}は人^{ひと}々^々天^{てん}ハ天^{てん}人^{にん}ハ人^{にん}と成^{じやう}望^{のぞ}は亦^{また}より忍^{しの}むを作^{つく}
 り能^よくとす成^{じやう}望^{のぞ}は
 一^{いつ}道^{みち}も益^{えき}榮^{えい}難^{なん}有^ある存^{ぞん}は毎^{まい}交^{かう}中^{ちゆう}に通^とり何^{なに}
 事^{こと}もふ一^{いつ}とす成^{じやう}望^{のぞ}は其^{その}ふと天^{てん}よも存^{ぞん}はた明^{めい}
 善^{ぜん}難^{なん}有^あるて日^{にち}を送^たり能^よくは是^{こゝ}は携^たる樂^{たのしみ}ハ成^{じやう}望^{のぞ}

空は免角何事も入るぬ招陽考の成在時
一首

天つちともよむぐりしを限り知るまぬ命あるらぬ
しかくゆふとくをぬかすに成長の成
のる来陰

一天照大臣神と主人歩晚ともおこむるゆき
不來ふるふハ出木中へ留置るもふの量可大
切き美は空陰

一暑きも迎來の何らさるるもの土用中より
先月中は嚴霜は空陰は陽尊表に
は成事歎しは空陰保道連中祀を別業も
無何空難有西軍と空陰は藥や中上は通人
陽氣を下は結めはゆへ何事も何やまりハ
空は免角上の陽尊のほせは均ハ万事何ぶあ
き者ハ空陰をくまふる人の出来仕事も皆ん

の礼を以ては世を思ふ人の上へ付奉りて授
も一切難有るを取外し可なり

一た之何程道を守りたる其の陰等にお集り
出世お成難中何事其の事にお成るは
何の成難

一人この一人の事奇妙ある事其の事
世の中事其の事其の事其の事
存世世の古人之言も其の世と經る事

之の世を皆うつりて口計りと流れて仕也中
其の神は成るは則神あり佛に成るは則
佛之邪に成るは其の事也其の事より外に道
ありとしも成る

一天地は國恩といふ事其の事其の事
中事難有るを申す其の事其の事
事にお成るは其の事其の事其の事
事にお成るは其の事其の事其の事

一道ハ殊ニ難有ものこそ業々〇お仲は佳し
 と難有燒雲何事も面白く思ひ善く在るを其
 面白きう天照る侍神之由の心一り笑られ何が
 一り昔一こいふ一何し付ても来難有る汁之皆
 一りつと笑くとふさぐとの二り也
 一心も日月より来りよふんあり形も天地の自
 然と生くもよ形おれハ素と無理はすつるも及
 不中何事も天地と共よ来まば殊も難有る汁

こ馬ゆき

一道之事は尋教に成委細弟知仕我謀は信
 ん信くは修行は丹謀は厚志を感佩我保生通
 と中華ハんも肉體も共よ生榮くと来り我事道
 と本意は座をんう活物に我お心活て来り我
 形ハん存儲もの申く共と活榮え来り我
 盡は生ものよは生を第一天道ハ生くとて天地
 の道ハ死と事ハ更と来者ハ座を皆是所

由是得成厥くハ能徳其由活通あきらめざるを一不其来交由
 事之由生能達其象と申思ろたす一其者由生能成
 象と申者この由生能成其象あきらめざるを天道由合
 点行兼てんしきうも者もの由生能成其象と難れ難有一人ひとりと以て
 由執行ごんしきやう其来交由道ハ生通ちち一よお遠毒きん由生能成
 其由何故いふよ能一其不も由閑取えきりざる人尚誠ひとあさまことと不
 能人ハ親子兄弟めいごとてても致方ちかひ其由生能成其象あきらめざるを此
 能ハ合点とちりしんの由成由兼あきらめざるを一其由生能成其象あきらめざるを道由執たすん之

誠ハ感心かんと仕作しやく其理ちり成以てごぜん由生能成其象あきらめざるをと
 離達りたつて誅しつと執しつるごん其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを
 と難まこと達たつ誠まことと執しつるごん其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを
 天地てんちの活物いきものと呼よび出いさくあきらめ其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを
 在ざいよごん由徳蒙とくもうふごん其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを
 其由一ごん由徳蒙とくもうふごん其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを
 誠ハ天照太御神あまてらすおみかみとごん由生能成其象あきらめざるをと難まこと達たつ其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを
 能たすりごん其由一ごん由徳蒙とくもうふごん其由一ごん由執行ごんしきやう其来交由あきらめざるを

神道系

黒住派本居藩

此款の場成返すも信ふ成交はるは

版權免許

明治十一年
六月廿二日
同年十二月出版

神道黒住派管長

編輯兼
出版人

權少敬正黒住宗篤

岡山縣平民備前國御野郡
上中野村二百十六番屋敷居住

賣捌所

備前國岡山東中山下

同國岡山中之町

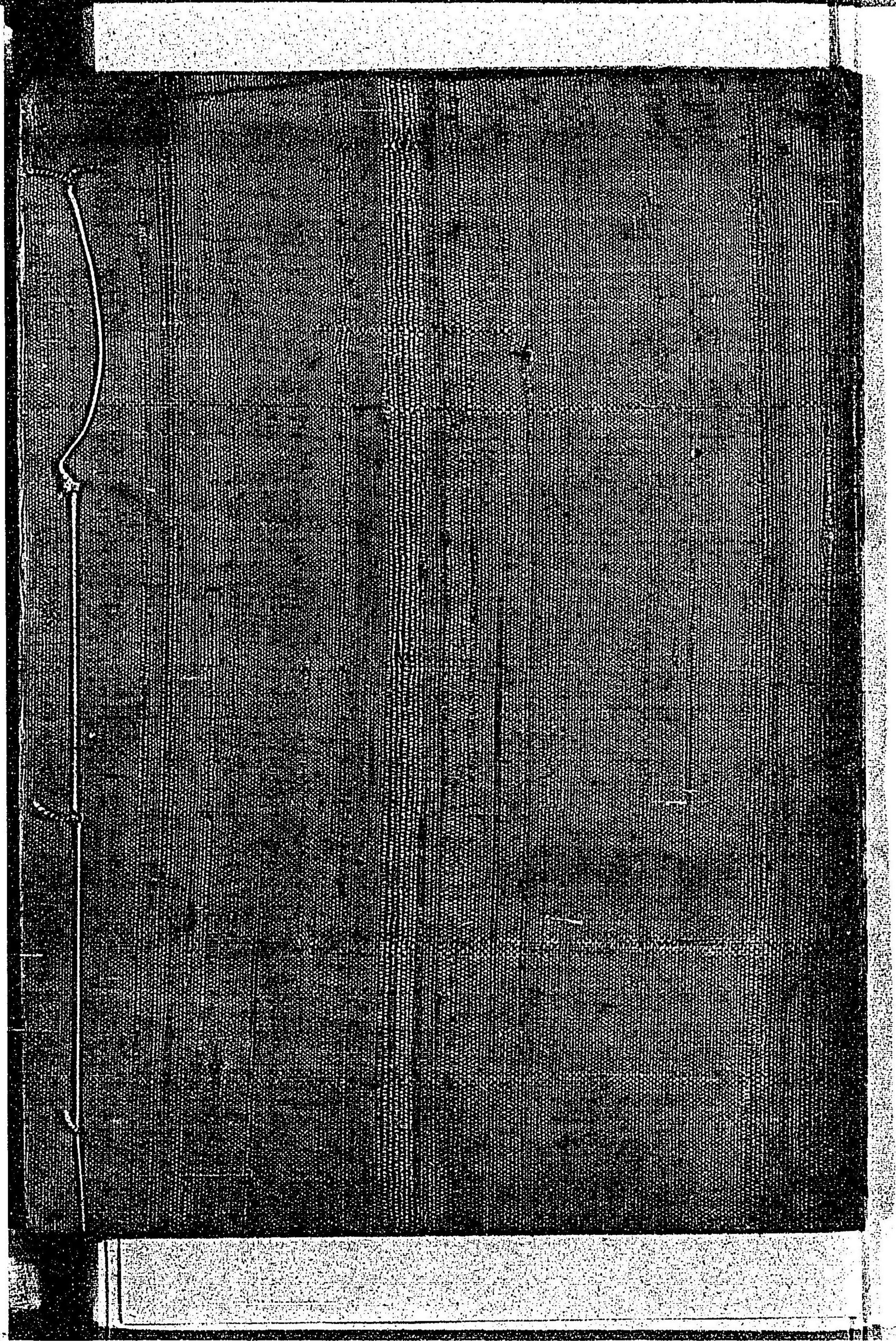
同國岡山上之町

大島勝海

森禎藏

逸見喜三郎

定價拾五錢



特36

595

014623-000-8

特36-595

誠乃心伝

黒住 宗篤/編

M11

ABB-1052

